

全 国 曹 洞 宗 青 年 会

SOUSEI

2023.8 VOL.202

特集① 第25期新会長インタビュー

結集:想いを結び合わせ、未来へ

特集② 全曹青創立50周年記念事業

森井実行委員長インタビュー

記念事業紹介



結集：想いを結び合わせ、未来へ

創立時に制定された基本方針

- ・ 青年僧侶のエネルギーを結集しよう
- ・ 社会的価値のある活動をしよう
- ・ 青年僧侶の自覚を促そう
- ・ 地域における活動の連携を深めよう

アフターコロナを迎え、社会全体で様々な活動が再開し、少しずつコロナ禍前の形に戻りつつあります。そのような社会変化の中で、『結集…想いを結び合わせ、未来へ』をスローガンに掲げ、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）の第25期会長に就任した田ノ口太悟新会長にお話を伺いました。

第25期会長就任にあたり、お気持ちを聞かせてください

全曹青は第25期において創立50周年を迎えます。その節目に現代に生きる青年僧侶が当会の精神とどう向き合うか、そして創立理念である『大衆教化の接点を求めて』をどのように実践するかを念頭に活動を展開してまいります。昭和50年に創立した全曹青初期の広報誌『曹青通信』には4つの基本方針が掲げられていました。この言葉から各地の青年僧侶や曹青会の結集と、一般社会に対しての開かれた教化活動の参究と実行があったことが考えられます。僧侶が個々で教化活動を行うだけでなく、僧侶同士の交流と地域の活動を活発化し、寺檀関係の枠を超えて社会全体を教化活動の対象とするということです。『大衆教化の接点を求めて』という創立理念や4つの基本方針も、お釈迦様のみ教えをより多くの人々に広げるために考えられたものです。青年僧侶が僧侶としての生き方やお

釈迦様のみ教えを集って学び実践する。青年僧侶の活動が将来の全曹青、また曹洞宗門にとっての活動の礎になれるよう活動してまいります。

出向するきっかけとなったことは何かありますか

私が出向したいと考えるきっかけとなったのは東日本大震災でした。発災当時、私は大本山永平寺に安居中でした。送行後、福島県伊達市・成林寺様での一周忌法要に福岡県曹洞宗青年会の一員として随喜させていただきました。そこで初めて全曹青の活動に触れ、一周忌法要が終わった後、随喜された皆様と行茶活動をさせていただきました。初めて行茶活動という取り組みに触れた私は、同じ青年僧侶がそのような意欲的な活動をされていることに興味を抱き、全曹青という団体に参加してみたいと思うようになりました。

『大衆教化の接点を求めて』をどのように捉えていますか

お釈迦様が菩提樹の下でお悟りを開かれたとき、「なぜそこで自分の中だけに考えを秘めたまま一生を終えなかったのか」ということが、私の根本的な疑問としてありました。他者に教えをわかりやすく説くことには苦勞が伴うわけですが

結集：想いを結び合わせ、未来へ

ら、自分の心の平安だけを求めるのであれば、特に教えを説かず生きていくという選択肢もあったはず。なぜお釈迦様はその苦勞を引き受けてまで他者に教えを説く道を選ばれたのか。私はその問いの答に、お釈迦様のみ教え、仏教の核心があるのではと考えています。仏教はお釈迦様がお悟りを開かれたときではなく、自分以外の人間に伝えようと思ったときに始まったのではないのでしょうか。

その問題意識から『大衆教化の接点を求めて』という創立理念を考えると、「伝えようとすること」を真摯に考えていく姿勢が大切なのではないかと思います。

スローガン『結集…想いを結び合わせ、未来へ』に込めた想いとは何でしょうか

このスローガンでは青年僧侶が様々な縁を繋ぎ、切磋琢磨しあうことを掲げています。現在の全曹青があるのは、これまで繋げてくださった諸先輩方の想いがあるからです。諸先輩方と現役会員、そして今後全曹青を担っていく未来の青年僧侶の想い、この3つの想いを結びつけることによって、全曹青を未来に繋げていくことができるのではないかと考えました。

アフターコロナでの活動で目標とすることはありますか

コロナ禍で行われた「おうちで坐禅してみよう」や動画配信といったオンライン事業を通じて、全曹青における新たな活動の可能性を感じることができました。「おうちで坐禅してみよう」では、距離が離れた方々に参加いただき、坐禅を通して数多くの縁を結ぶことができました。動画配信では様々な講師をお招きし、これからの青年僧侶に必要とされる知識や情報を多角的に発信することができました。

しかし、コロナ禍で出向者同士の対面での交流は限られたものになってしまいました。「聲咳に接する」という言葉も

あるように、オンライン交流と実際に対面しての交流は違ったものではないかと思えます。

全曹青の活動の根幹は、青年僧侶同士の交流です。そこで、第25期では会員同士の交流を重視したいと思っています。対面で交流することにより皆で切磋琢磨して意見を出し合い、語り合う場を作りたいと考えています。またコロナ禍での活動により、実地開催に関連する活動ノウハウの引継ぎが上手くなされなかったことが課題としてあります。それを改めて作り上げていくことも念頭に入れ活動を行ってまいります。

加盟曹青会との連携強化のためにできることは何でしょうか

全曹青の発会以前に、全国の青年僧侶や青年会を繋ぐ組織はありませんでした。全曹青の発足を目指す運動は以前からありましたが、それがなされたのは昭和50年の秋でした。なぜ当時の諸先輩方が全曹青を作ろうと考えたのかというと、先程も触れましたが、青年僧侶のエネルギーの結集を目的に交流の場を持ちたいということが理由だと思います。創立50周年記念事業では加盟曹青会と共に行事を行う機会を作りたいと考えています。多くの加盟曹青会に支えられた連絡協議体として、皆様のご協力をいただきたく存じます。



たのくち たいご

田ノ口 太悟

昭和58年10月10日生まれ
福岡県北九州市 長覚寺住職
福岡県曹洞宗青年会所属
第22期より出向
第23期広報委員長
第24期副会長
第25期会長



国際活動をより活発にするためにできることは何でしょうか

当会顧問をお務めいただいている村山博雅師が、引き続き世界仏教徒青年連盟（以下、WFBY）会長に再就任されました。また、全曹青も加盟している全日本仏教青年会（以下、全日仏青）という各宗派の青年会が集まった団体はWFBYの日本センターになっております。全曹青の国際委員会、全日仏青、WFBYというこの繋がりを生かし、全曹青だけでは難しいような国際活動に取り組んでいきたいと考えております。



最後に皆様へメッセージをお願いします

全曹青はとても魅力のある組織です。その魅力を出向者の方々、加盟曹青会の方々に十全に感じてもらえるよう、会長として全力を尽くしたいと思います。全国の曹洞宗門の諸老師方、ご寺院様におかれましては、ご理解とご支援のほど何卒よろしく願いたします。

取材／広報委員長 宮本貴心
広報副委員長 信行一宏

田ノ口会長の所信表明は公式HP『般若』でご覧いただけます。



田ノ口会長(上)とインタビューする宮本委員長(下)

全国曹洞宗青年会創立50周年

昭和50年に創立した全曹青は、第25期で創立50周年の節目を迎えます。

この第25期では、スローガン『結集・想いを結び合わせ、未来へ』のもと、創立からの歴史と、活動に関わられた先輩方の想いを受け継ぎ、さらに次の代に伝えるために「全曹青の50年間の想いと経験を未来へと、そして将来の青年僧侶に結び合わせる」記念事業を企画いたします。

全曹青は活動目的として、「古教照心の示訓を旨に自己の研鑽に努め、互いに乳水和合し、自由で創造的な活動を通じ、心豊かな社会の形成を目的とする」と会則に定めています。そして『大衆教化の接点を求めて』を創立理念としています。この目的と創立理念に則り、創立当初から様々な問題に対して会員一人一人が協力して活動を行ってまいりました。その結果、会員同士の相互理解が深まり、より大きな問題に取り組むことができる好循環に繋がっています。

全国の青年僧侶と全曹青活動を結びつけ、青年僧侶それぞれがの勉学と精進、そして交流によって一仏両祖のみ教えの一層の布教へと繋がっているのは、諸先輩方が互いに乳水和合し、自由で創造的な活動を綿々と相承してこられたからに他なりません。そのお姿に敬意を払うため、また近年コロナ禍などで集まることができず繋がりを築きづらかったため、この勝縁に青年僧侶同士が結集する機会を創出いたします。今一度原点に立ち返り、心豊かな社会の形成を目的に、青年僧侶の想いを一つにすることをテーマとして、創立50周年記念事業に取り組んでまいります。

森井実行委員長インタビュー

全曹青創立50周年を迎え様々な記念事業が展開される今期、その中心となる森井宗淳実行委員長にお話を伺いました。

きっかけ

なぜ全曹青に出向しようと思ったのですか

地元の先輩に声をかけていただいたのがきっかけでした。それまでは正直なところ、恥ずかしながら全曹青の存在をよく知りませんでした。当時私は働いておりましたので仕事との両立ができるのか不安もあり断っていました。しかし、根気強く誘っていただいたこともあり、これも縁なのかなと思い出向しようと思いました。

いざ出向してみると、全曹青に関わる皆さんが一生懸命に活動する姿を間近に見て、自分にも何かお役に立てることがあればという想いが湧きあがり、現在の私へと続いています。

50周年事業に込めた思い

創立50周年を意識されたのはいつ頃からでしたか

第24期副会長になって意識したのが初めてで、それまでは個人的に先を見る余裕もなく意識していませんでした。

実行委員長を引き受けた際のお気持ちはどうでしたか

最初にお話をいただいた時は、なかなか決心がつかずお断りしました。50周年に対する想いは多くの方から伺っていたので、少しでもお手伝いしたいという気持ちと、重責が務まるのかという不安で心の整理がつかなかったのです。諸先輩方や周りの方からあらためてお話を伺い、田ノ口会長をはじめ皆さんがサポートしてくださるということで、決意を固めました。



このロゴにはどのような想いを込めて制作されましたか

プロデザイナーに向けたコンペティションを開催し、約100案集まった中から選定しました。多くの要素を盛り込むのではなく50という数字をメインに、さらに全国の繋がりと青年僧侶の若々しさをイメージして募集しました。このデザインには、50周年を迎える全曹青として、全国の加盟曹青会や青年僧侶の力が寄り集まりながら和合することで、突き進む力となっていることを表しており、さらにこの先には無限の可能性を秘め、一歩でも上昇しながら先に進んでいこうという想いを込めています。



もりい そうじゅん
森井 宗淳

昭和58年10月26日生まれ
島根県仁多郡奥出雲町 妙楽寺住職
いずも曹洞宗青年会所属
第22期より出向
第23期教化委員長
第24期副会長
第25期50周年記念事業実行委員長



50周年事業を通して目指すものは何ですか

今の私たちが求めているのは諸先輩方が『大衆教化の接点を求めて』の理念のもと、熱意を持って活動してこられたからです。そして、その活動を振り返りながら、『結集…想いを結び合わせ、未来へ』というスローガンのもと、連絡協議体として全国の皆さんと共に周年事業を展開してまいりたいと思います。

そして、周年事業を通じて青年僧侶同士の親睦を深めていきたいと思っています。青年僧侶である時間は短期間しかありません。しかし、ここでしっかりとした関係を作ることができれば、その後も連絡を取り合い活動の幅が広がることに繋がります。今だけでは無くこの先の

未来へ続く繋がりを作れることを目指して、各事業では皆さんが懇親を深められるように取り組んでまいります。

準備を進めていく中で感じることはありますか

準備をしていると、過去資料や広報誌を見ることによって、全曹青が始まった経緯や活動内容など様々見ることができました。本当に幅広く活動されてきて、知らない事業もたくさんありました。この一つ一つが、現在の国内に留まらず海外に及ぶ全曹青活動に繋がっています。だと先輩諸老師の活動をとっても誇りに感じました。と同時に責任とプレッシャーも重く感じることもなるのですが。そして改めて、この50周年だからこそ

行うべきことは何なのか考え、多くの方にご意見をいただきました。そこから思うところとしては、全曹青を作っていたいただいたこと、全曹青が続いていること、そして多くの方々に支えていただいていること。この50周年は、私たちの土台を見つめることが務めなのではないかと今思っています。

メッセージ

各加盟曹青会へ何かメッセージはありますか

周年事業を通じて、全曹青は別組織ではなく、加盟曹青会の皆様の繋がりで成り立っているということをあらためて感じたいです。そのためにも、事業に対してご意見いただき、ぜひともご参加いただけたらと思います。

しかしながら、せっかくご意見をいただいても全国規模のため実現が難しいこともございます。ただ、ご意見をいただけるだけでも、皆さまと繋がって一つのものを作っていることが実感でき、勇気が湧いてきます。贅沢を言いますと、多くの方にご参加いただき一緒に時を過ごすことができれば最高です。

青年僧侶へ伝えたいことはありますか

青年僧侶へというか、自分自身に対しての言葉にもなるのですがいいですか？地元や全曹青などのOBの方に、青年僧侶は失敗してもいい、失敗するために青年会はあるのだと言われることが多々あります。今の自分の立場としてはそう思うには勇気が必要ですが、限りある青年僧侶である時間を大事に、失敗を恐れず一緒に励んでいきたいと思っています。また全曹青に限りませんが、お寺を守っている家族をはじめ関係の皆さんへの感謝を忘れないことです。その支えがなければ私たちは外に出て活動することは難しいはず。そういった気持ち伝えることも大切だと自分自身に言い聞かせています。そして、そんな時を過ごされた先輩方のおかげで今があることに、感謝と誇りを持って頑張っていきたいと思います。

取材／広報委員長 宮本貴心
広報副委員長 信行一宏

記念事業紹介

両大本山拝登

国内に留まらず海外まで幅広く活動を展開し、創立50周年という半世紀を迎えました。この節目がまず原点に立ち返る機会と考え、曹洞宗の青年僧侶にとって一番大事にすべき両大本山へ拝登いたし、諸先輩方の熱意溢れる活動を半世紀にわたって続けてこられた感謝と報告を行い、これからの未来に向けての誓いとさせていただきます。

また、世界平和に想いを向けた諷経を行います。ここ数年において、世界はコロナ禍に見舞われ、ロシアとウクライナの戦争が発生するなど不幸な惨事が相次



いでおります。さらに、50年間という視野で見ると途方もない戦災や自然災害が発生しております。悲惨な過去の経験を踏まえ、平和を願う青年僧侶の想いを集めて、世界に想いを向ける事業といたします。

本年11月29日に大本山總持寺では、「世界平和大祈禱諷経」を全曹青第2期会長でもあられる石附周行紫雲臺猊下に御親修賜り、活動への感謝と報告の「全曹青創立50周年報恩諷経」を全曹青会長導師で厳修いたします。

大本山永平寺へは、令和6年に拝登する予定です。

全国災害復興支援活動研修会

全曹青は阪神・淡路大震災や東日本大震災へのボランティア活動を含め、青年僧侶だからこそ可能なフットワークの軽さを活かし災害復興支援活動に力を注いでまいりました。しかし、東日本大震災から12年が経ち、当時、支援活動に頻繁に参加しておられた会員も卒会となり、世代交代が進んでおります。経験の乏しい青年僧侶は、ボランティア活動に対して一抹の不安を抱えており参加に消極的になっていきます。さらにコロナ禍も加わり、活動に向かう機会も奪われてしまっております。

そこで災害復興支援活動において必要になる道具や心構えなどの講義を行い、併せて、第20期より全国15か所に配備しているストックヤードを活用した炊き出し研修を行うことで、不安を払拭できる



ような内容の研修会を全国9管区で開催いたします。災害がないことが一番の望みですが、災害が起きた場合躊躇うのではなく、率先して支援活動に向かえる人を増やすことを目的とし、全国の青年僧侶がより手を取り合えるきっかけになるような事業といたします。

■日程

令和5年	12月5日	東海管区
	12月11日	九州管区
令和6年	2月28日	近畿管区
	3月27日	関東管区
	6月4日	中国管区
	6月26日	北信越管区
	7月8日	東北管区
	9月2日	北海道管区
	9月26日	四国管区



全曹青創立50周年記念事業



■日程(案) 令和6年秋予定

曹洞宗の教えの根幹に禅の教えがあることは言うまでもありません。全曹青においても、各青年会においても、この禅の教えを伝えるために様々な事業が展開されてきました。

そして全曹青創立には、青年僧侶の熱い気持ちと盛り上がりで全国に広がった「禅のつどい運動」が大きな機縁となっています。さらに第24期では、アウトドア用品の株式会社モンベルとコラボして坐蒲と寝袋の機能を兼ね備えた頒布物「ZENSOUSEI ZEN CUSHION」を製作し、坐禅の可能性を広げました。この50周年を迎える機に、創立の原点に立ち返り、改めて坐禅の魅力と禅の教えを広く伝えるため、一般の方々を対象とする「禅のつどい」を開催いたします。

禅のつどい

創立50周年記念誌『LOG』

全曹青が積み重ねた50年の歴史を振り返るとともに、次の50年を目指して受け継ぐべき全曹青の理念や想いを共有できる記念誌を制作いたします。

この50年間は、数えきれない活動と出来事、そして携わられた青年僧侶がおられます。創立時〜現在に至るまで連続と伝わってきた「全曹青イズム(全曹青らしさ・全曹青の流儀)」を浮き彫りにし、世代を超えた連帯感を生むことを目指します。

そして未来の青年僧侶に引き継ぐべき「事業」や「想い」を伝え、全曹青の歴史を後世に伝えていくことを目的といたします。



■発行日(案)

広報誌『SOUSEI』第208号(令和7年2月発行)に同封を予定
タイトル

『LOG』(読み:ログ)

全曹青という大きな飛行機の50年間の航空記録としての「LOG」と、繋がりと成長「Link Of Growth」の頭文字の2つの意味を表し、全曹青の歩んできた記録を表現しております。



40周年記念誌「40+」

創立50周年記念式典

創立50周年の節目にあたり、創立より今日まで功績を残してこられた歴代会員宗師に感謝の意を表し、更なる会の発展を誓うべく記念式典を催します。

全曹青が繋いできた縁と想いを青年僧侶と関係の皆様と共有し、青年会の今現在の活動が一層広がっていくような内容を目指します。

さらに記念講演も併せて開催いたします。

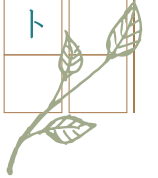
■日程(案) 令和6年春予定



創立40周年記念式典

現時点での記念事業の予定ではございますが、第25期においてしっかりと練り上げてまいります。何卒よろしくお願いたします。

加 盟 曹 青 会
活 動 レ ポ ー ト



愛知県第一曹洞宗青年会
45周年記念大会

令和5年4月24日、愛知県第一曹洞宗青年会45周年事業記念式典を開催いたしました。コロナ禍の2年間にわたる45周年記念事業は、企画事業の延期やオンライン化への対応など、これまででない臨機応変な対応が求められる事業となりました。しかしながらその集大成ともいえる記念式典では大変多くのご参加をいただき、無事円成いたしましたことを報告いたします。



記念講演「明日の世界を救う仏教」青山俊董老師

お寺を取り巻く環境が大きく変化している昨今、私たち僧侶の多くがお寺や自身の在り方について不安を感じています。45周年記念事業では、そんな不安や悩みを抱く僧侶の学びとすべく、愛知専門尼僧堂堂長・青山俊董老師を講師として「眼蔵会」(全9回)、未来の住職塾理事・遠藤卓也氏を講師として「これからのお寺をデザインする会」(全5回)を行いました。

記念式典においても同講師をお招きしご講演いただきました。お二人のお話から僧侶として今の時代をどのようにあるべきか今一度見つめ直す大変有難い学びをいただきました。

文／愛知県第一曹洞宗青年会 川浦良允
(全曹青50周年記念事業実行副委員長)



「これからのお寺をデザインする会」事業報告

九州曹洞宗青年会総会「熊本大会」

令和5年6月6日、メルパルク熊本(熊本市)において、令和4年度第53回九州曹洞宗青年会総会が開催されました。ご来賓の九州管区管区長の村上和光師から激励のお言葉をいただき、全曹青からは田ノ口太悟会長よりご挨拶いただきました。議題審議につきましては、滞りなく進行し、すべての議案が承認され、その中で役員改選を行い新会長として、宮崎県のよしもと霊元圭昌師が就任されました。総会の最後に前期会長



九曹青総会集合写真

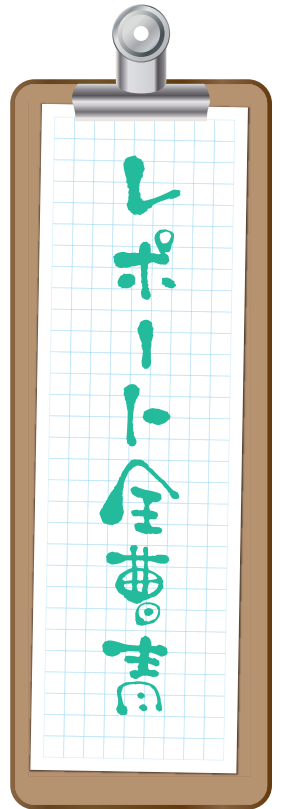
の清永貴司師より、退任の挨拶がありました。「今をつなぐ、未来へ紡ぐ」というスローガンのもと、活動を行った任期でしたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響により、今までと同じ活動ができるのかと葛藤することも多くありました。それでもやれることには挑戦していこうと決意を掲げ、皆様の協力のもと、会の運営ができたと思います。ありがとうございました」と述べられました。

総会終了後には、広島県普門寺住職・吉村昇洋師を講師にお迎えして「精進料理考」インド・中国・日本の僧食を辿る」と題し、記念講演をいただきました。精進料理という切り口から、我々僧侶の原点を振り返り、自分を見つめ直すとても良い機会となりました。

文／福岡県曹洞宗青年会
信行一宏(全曹青広報副委員長)



記念講演の様子



令和5年度 中央研修会



令和5年5月18日、曹洞宗檀信徒会館で「社会の価値観に寄り添った布教」大衆教化の接点を求めて」をテーマとして中央研修会が開催されました。

最初に安達瑞樹師より現在ご自身が代表理事をされている一般社団法人「観世ふおん電話相談」の活動についてご紹介いただきました。今年度の布教化の方針の「声なき声に耳を澄ませて」という文言にも触れられ、傾聴の実践者一人一人の悩みに寄り添うことが大切であると語られました。また「観世ふおん電話相談」はそのような傾聴の仕方を学ばせていただく場であり、様々な立場や境遇の青年僧侶が共に研鑽していく場であることも強調されていました。

続いて本多清寛師からは、現在に至るまで様々な模索・活動の中で積まれた経験を基に、僧侶としての社会との

向き合い方についてお話しいただきました。パーテナーとしての実体験にも触れながら、対話において重要なこととして、まず相手の想いにしっかりと耳を傾けてその想いを汲み取り、相手に自分に向かつて話してくれていると感じてもらえるようにすることを挙げられていました。また価値観が多様に変化していく中で起こる様々な問題について、拙速な解決を求めず当事者との対話を通じて少しずつ相互理解を醸成していくことが肝要であるとのご指摘がありました。

最後に田ノ口会長をファシリテーターとして、講師を務めていただいた安達師と本多師にご登壇いただき鼎談と質疑応答が行われました。青年僧侶として布教化をどのように捉え、どのような姿勢で取り組んでいくのかについて真剣な議論が交わされました。

コロナ禍を経て、寺院・僧侶を取り巻く環境の変化は速度を増しつつあるように思われます。本研修は、そうした中で私たち青年僧侶は何をすべきか、何ができるのかを原点に立ち返って考えることのできる貴重な機会となりました。

文／広報委員 竹田龍永



講師プロフィール

安達瑞樹師 (写真中央)

一般社団法人

「観世ふおん電話相談」代表理事

全国曹洞宗青年会第21期会長

兵庫県丹波篠山市 長楽寺住職

本多清寛師 (写真右)

曹洞宗事務庁

人権擁護推進本部本部長

熊本県熊本市 泰陽寺副住職

令和5年度 定期総会

令和5年5月19日、曹洞宗檀信徒会館で令和5年度定期総会が行われました。ハイブリッド形式で行われ、現地参加とオンライン参加合わせて約120人のご参加をいただきました。

定期総会に先立ち、来賓でお越しの曹洞宗事務庁教化部長・深川典雄老師、大本山永平寺監院・小林昌道老師、大本山總持寺副監院・勝田浩之老師よりご挨拶と、第24期全曹青のコロナ禍での活動についての慰労、全曹青創立50周年を迎える第25期全曹青への期待のお言葉をいただきました。

総会での山田俊哉第24期会長の挨拶では、コロナ禍で社会情勢が不安な中での



山田俊哉第24期会長 退任挨拶

会員の協力に感謝し、活動結果や今後の展望など第24期の総括と退任にあたっての御礼が述べられました。次に田ノ口太悟第25期会長より所信表明と第25期スローガン『結集・想いを結び合わせ、未来へ』が発表され、創立50周年を迎えるこの節目にもう一度原点に立ち返り、全曹青の諸先輩方への感謝・青年僧侶同士の交流・青年会活動の未来への継承の3つを重視して活動を展開していくことを強調されました。

コロナ禍から抜け出し、日々の日常が少しずつ戻ってきました。そのような状況下で始動した第25期の会員一同は新たな挑戦へ向かう意志を共有しました。

文／広報委員 植本大貴



田ノ口太悟第25期会長 所信表明

両大本山に第25期 就任ご挨拶

令和5年5月31日、田ノ口会長はじめ副会長、50周年記念事業実行委員長、顧問、事務局長の8人で大本山永平寺に拝登し、不老閣下にて拝問させていただきました。監院老師にご面会の機会をいただきました。南澤道人不老閣下には社会情勢を交え、青年僧侶への激励のお言葉を頂戴いたしました。小林昌道監院老師には定期総会へご臨席いただいたお礼と50周年事業のお話をさせていただきました。

時を改め、令和5年6月8日には7人で大本山總持寺へ拝登し、紫雲臺閣下にて拝問させていただきました。監院老師にご面会

の機会をいただきました。石附周行紫雲臺閣下には50周年記念事業として、今年の11月に大本山總持寺で開催予定の50周年記念事業「世界平和大祈禱綱経」を御親修とさせていただきます。行い、快くお引き受けいただきました。その後も全曹青として活動された当時の思い出や、全曹青への激励のお言葉を頂戴いたしました。渡辺啓司監院老師には大遠忌に向けての決意、また禪師様がどのような気持ちで行事に向き合っておられるかを教えていただき、より一層精進して日々の活動に取り組まなければならないと決意を新たにしました。

文／事務局長 仲野大悟



大本山永平寺拝登



大本山總持寺拝登



仏法興隆花まつり千僧法要

令和5年4月26日、奈良県東大寺で全日本仏教青年会（以下、全日仏青）主催の仏法興隆花まつり千僧法要（以下、千僧法要）が厳修されました。

当日は朝から雨模様でしたが、どこからか「甘露の法雨だね」との声が。列をなして大仏殿に入り毘盧遮那仏のご尊顔を仰ぎ見た時には、独特の緊張感と共に大きな喜びを感じました。残念ながら各宗派・団体20名までという制限はありましたが、かつて集った千僧、万僧の姿に想いを馳せ、宗派を超えて法要を行いました。

千僧法要は仏法興隆と世界平和への願いのもと開催されており、その誓願文には「釈迦牟尼仏帰依の法要を通じて苦悩する人々の心の救済と人類の福祉・世界の平和に寄与せんことを」とあります。しかし、昨今の世界情勢を見ても未だ道半ばであることは否めません。それでも平和への願いが止むことはないでしょう。法要に先立ち奉納された東大寺学園幼稚園の子どもたちの歌には「世界がひとつになるまで ずっと手をつないでいよう」との歌詞がありました。いつの日かこの平和への願いが皆に届くように、千僧法要を通じて、私自身も強く信じていたいと思えました。

法要が終わり、退堂の際に仰ぎ見た毘盧遮那仏のご尊顔は、私には何だか最初より優しく微笑まれている様に見えました。

文／国際委員長 神野太賢

全日本仏教青年会 新体制始動

令和5年6月29日に行われた定期理事会において、全日本仏教青年会（以下、全日仏青）の第24期理事長に、和宗仏教青年連盟の新井順證師が就任されました。新井師は大阪府四天王寺東光院住職であり、また第23期全日仏青においては副理事長を務められました。

新井新理事長からは、「皆様の承認をいただきまして、理事長職を務めることになりました。名譽なことであると共に、大変な重責だと思っております。皆様のお力をいただきながら、出来ることを爾々で行い、また変化することを恐れずに時代に即した仏教青年会のあり方を常に考えて歩んでいきたいと思えます。ご協力よろしくお願いたします」と挨拶がありました。

文／会長 田ノ口太悟



日頃より全国のご寺院様、全曹青会員諸師、各曹洞宗青年会様には多くのご協力をいただき、心より御礼申し上げます。第25期災害復興支援部では、災害が起きた際の被災地曹青会や関係団体との情報共有を密にし、災害への備えに万全を期すと共に、災害メーリングリストや広報誌『SOUSEI』、全曹青各WEB媒体を通して引き続き情報発信を行います。さらには50周年記念事業実行委員会と協働し、災害復興支援活動研修会を全国各地で開催いたします。

予想される大規模災害に備えシミュレーションや研修会を行い、発災の際には災害復興支援部一丸となって支援活動に取り組んでまいります。

文／災害復興支援部事務局長

清泉雄太

災害ML登録のお願い

全曹青では災害発生時の情報共有を目的にメーリングリストを活用しております。全国規模での連絡協議体というスケールメリットを活かし、被災地の被害状況・ニーズ・支援の要望を出し合い、迅速な支援活動のお手伝いをいたします。ぜひご登録をお願いいたします。

いちちらより
ご登録ください





管区理事からのごあいさつ



北海道管区理事 **佐藤康彦**

北海道第三宗務所青年会

この度、北海道管区理事を務める事となりました。北海道第三宗務所青年会の佐藤康彦と申します。今期は全曹青50周年の節目となるということで、様々な記念事業が計画されています。私にできることは少ないですが、無事に記念事業が進む様に微力ながらお役に立ちたいと存じます。2年間、皆様よろしくお願ひいたします。



東北管区理事 **菊池裕紀**

岩手県曹洞宗青年会

今年度より東北管区理事を務めさせていただくことになりました。岩手県曹洞宗青年会の菊池裕紀と申します。第25期で全曹青は50周年を迎えます。『東北はひとつ』のスローガンのもと、東北各県曹洞宗青年会の連携を計り、第25期田ノ口会長を支え、微力ながら尽力してまいります。2年間よろしくお願ひいたします。



北信越管区理事 **倉科俊浩**

長野県第二宗務所青年会

今年度より北信越管区理事を務めさせていただくことになりました。曹洞宗長野県第二宗務所青年会の倉科俊浩と申します。コロナ禍を経て、集って活動する事でしか経験できないものがあると感じるようになりました。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけも変わり対面しやすくなりました。青年会活動での出会いを大切に精進し、社会変化に対応していけるよう考動していきたいと思ひます。2年間よろしくお願ひいたします。



関東管区理事 **宇田川宗美**

埼玉県第二宗務所青年会

昨年度より関東管区理事を務めさせていただいております。曹洞宗埼玉県第二宗務所青年会彩青会の宇田川宗美と申します。第25期で迎える全曹青50周年では『結集：想いを結び合わせ、未来へ』のスローガンのもと、志を一にして記念事業をはじめ全曹青らしさが光る活動が展開されることを期待しております。残りの任期を微力ながら尽力してまいります。



東海管区理事 **井上洋彰**

三重県曹洞宗青年会

昨年度より東海管区理事を務めさせていただいております。三重県曹洞宗青年会の井上洋彰と申します。第25期のスローガン『結集：想いを結び合わせ、未来へ』のもと、人と人の繋がり的大事さを実感した今、新たな全曹青の活動に微力ながら協力し、東海曹青との橋渡しとなれるよう精一杯務めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



近畿管区理事 **上田大悟**

滋賀県曹洞宗青年会

昨年度より近畿管区理事を務めさせていただいております。滋賀県曹洞宗青年会の上田大悟です。今年は各活動に加えて創立50周年事業が各管区で予定されている中、橋渡し役として日々精進してまいります。また対面での活動も増えていくことで改めて集まれることに感謝をし、そのご縁の尊さを感じながら充実した青年会活動ができるよう、微力ながら尽力させていただきます。



中国管区理事 **清木玄栄**

山口県曹洞宗青年会

この度、中国管区理事を務めさせていただきます。山口県曹洞宗青年会の清木玄栄と申します。コロナ禍も落ち着き始め新たな生活スタイルへと移行する中、全曹青は創立50周年を迎えられます。第25期では様々な記念事業を企画されておられますが、中国管区内の加盟曹青会様のお力を結集し、私自身も微力ながら尽力してまいります。2年間よろしくお願ひ申し上げます。



四国管区理事 **福村泰史**

四国地区曹洞宗青年会

この度、四国管区理事を務めさせていただきます。四国地区曹洞宗青年会の福村泰史と申します。約3年半に及ぶコロナ生活の中で気付かされた「平生」の尊さ。暗闇からようやく抜け出そうとしている今こそ、その尊き「光」を見失わず、未来へと繋げていかなくてはならないと思ひます。まさに第25期スローガン『結集：想いを結び合わせ、未来へ』。田ノ口会長はじめ執行部の皆様と想いをひとつに、精進してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



九州管区理事 **霊元圭昌**

宮崎県曹洞宗青年会

九州管区理事を拝命いたしました。宮崎県曹洞宗青年会所属の霊元圭昌です。九州管区は豪雨による災害を受けやすい土地柄です。防災も含め、発生時の迅速な情報共有・活動などに注視し、取り組んでまいります。各県曹青会員の声に耳を傾けて、不退転の覚悟で行じます。何卒、ご指導を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

令和4年度 全国曹洞宗青年会 周年事業基金 報告

令和4年4月1日～令和5年3月31日

歳入総額 5,000,000 円
 歳出総額 0 円
 差引残額 5,000,000 円

<歳入の部> (単位:円)		
項目	金額	備考
前年度繰越金	4,500,000	令和3年度より
本年度積立金	500,000	一般会計より
合計	5,000,000	

<歳出の部> (単位:円)		
項目	金額	備考
事業費	0	
合計	0	

令和4年度 全国曹洞宗青年会 ボランティア基金 報告

令和4年4月1日～令和5年3月31日

歳入総額 9,643,394 円
 歳出総額 2,407,477 円
 差引残額 7,235,917 円

<歳入の部> (単位:円)		
項目	金額	備考
前年度繰越金	8,547,164	令和3年度より
本年度支援金	365,230	
納経料	231,000	
積立金	500,000	一般会計より
合計	9,643,394	

<歳出の部> (単位:円)		
項目	金額	備考
活動費	436,157	交通費など
活動経費	1,971,320	
災害見舞金	270,220	【災害見舞金】11件
活動支援金		【活動支援金】1件
助成金・会費	200,000	チャイルドラインふくしま、JVOAD、観世ふぉん
東日本大震災慰霊法要	1,491,594	詳細下記参照
事務費	9,506	郵送費、手数料
合計	2,407,477	

東日本大震災慰霊法要 歳出内訳 (単位:円)		
項目	金額	備考
運営費	507,594	
香資等	80,000	成林寺様、自照院様、龍泉寺様等
献花	50,000	スタンド花一基、供花束3対
加盟曹青年会助成	60,000	被災地曹青年会事業協力金
事業費	317,594	設備レンタル費、音花火代等
活動費	984,000	
交通費	764,000	配役出向者補助
宿泊補助	220,000	一泊5,000円補助
合計	1,491,594	

令和4年度 全国曹洞宗青年会 次期執行部準備金 報告

令和4年4月1日～令和5年3月31日

歳入総額 948,452 円
 歳出総額 272,050 円
 差引残額 676,402 円

<歳入の部> (単位:円)		
項目	金額	備考
前年度繰越金	848,452	令和3年度より
本年度積立金	100,000	一般会計より
合計	948,452	

<歳出の部> (単位:円)		
項目	金額	備考
会議費/交通費	272,050	
合計	272,050	

令和4年度 全国曹洞宗青年会 頒布物特別会計決算報告

令和4年4月1日～令和5年3月31日

歳入総額 7,000,000 円
 歳出総額 3,975,599 円
 差引残額 3,024,401 円

<歳入の部> (単位:円)		
項目	金額	備考
前年度繰越金	4,000,000	令和3年度より
本年度積立金	3,000,000	一般会計より
合計	7,000,000	

<歳出の部> (単位:円)		
項目	金額	備考
事業費	3,975,599	モンベル製品代、動画製作費等
合計	3,975,599	

令和5年度 全国曹洞宗青年会 一般会計歳入歳出予算

期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日

歳入総額 35,900,000 円
歳出総額 35,900,000 円
差引残額 0 円

令和4年度 全国曹洞宗青年会 一般会計歳入歳出決算 報告

期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

歳入総額 34,118,964 円
歳出総額 32,616,388 円
差引残額 1,502,576 円

款	項	目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備考
1. 基本運営収入			9,180,160	9,180,160	△ 5,244,584	
	1. 会費収入		2,509,000	2,433,000	△ 76,000	
		1. 同上	2,509,000	2,433,000	△ 76,000	前年度会費決算額を参考
	2. 繰越金		6,671,160	1,502,576	△ 5,168,584	
		1. 前年度繰越金	6,671,160	1,502,576	△ 5,168,584	
2. 事業費収入			24,309,840	31,964,424	7,654,584	
	1. 賛助費収入		5,500,000	6,000,000	500,000	
		1. 同上	5,500,000	6,000,000	500,000	
	2. 助成金		13,300,000	13,300,000	0	
		1. 事業助成費	13,000,000	13,000,000	0	
		2. 協賛金	300,000	300,000	0	広報誌広告協賛金
	3. 事業収入		5,500,000	12,660,000	7,160,000	
		1. 同上	5,500,000	12,660,000	7,160,000	修学事業等 55年度シラカシ(高校生)収入106万
	4. 雑戻金		0	0	0	
		1. 委員会運営費雑戻金	0	0	0	
	5. 雑収入		9,840	4,424	△ 5,416	
		1. 同上	9,840	4,424	△ 5,416	預金利息等
合計			33,490,000	35,900,000	2,410,000	

款	項	目	前年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
1. 基本運営費			7,410,000	9,300,000	1,890,000	
	1. 会議費		750,000	750,000	0	
		1. 役員会	250,000	250,000	0	年5回 執行部会・理事会 委員会総会
		2. 総会	500,000	500,000	0	年2回 評議員会・総会
	2. 執行交通費		5,600,000	7,500,000	1,900,000	
		1. 役員会	2,600,000	3,500,000	900,000	年5回 執行部会・理事会 委員会総会
		2. 評議員	1,500,000	2,000,000	500,000	年2回 定期・臨時評議員会
		3. 渉外交通費	1,500,000	2,000,000	500,000	全日仏青 管区大会 両木山拝堂
	3. 全日仏青関連費		250,000	250,000	0	
		1. 負担金	250,000	250,000	0	全日仏青加担費負担金
	4. 事務費		680,000	680,000	0	
		1. 通信費	350,000	350,000	0	郵送料・振込手数料等
		2. 慶弔費	200,000	200,000	0	祝賀、開帳、添葉等
		3. 消耗品費	100,000	100,000	0	郵便封筒作成費等 初年度は名刺制作
		4. 備品費	30,000	30,000	0	
	5. 雑費		30,000	50,000	20,000	
		1. 同上	30,000	50,000	20,000	
	6. 予備費		100,000	70,000	△ 30,000	
		1. 同上	100,000	70,000	△ 30,000	
2. 事業費			26,080,000	26,600,000	520,000	
	1. 委員会運営費		6,200,000	6,200,000	0	
		1. 総合企画委員会	1,400,000	1,400,000	0	企画運営・頒布事業等
		2. 広報委員会	2,300,000	2,300,000	0	広報活動等
		3. 教化委員会	1,400,000	1,400,000	0	教化事業、精選料理教室等
		4. 国際委員会	1,100,000	1,100,000	0	国際事業等
	2. 事業費		6,250,000	7,700,000	1,450,000	
		1. 本部事業費	4,650,000	4,500,000	△ 150,000	本部企画事業・頒布事業等
		2. 研修会開催費	300,000	300,000	0	中央研修会等
		3. 国際活動事業費	300,000	300,000	0	
		4. 周年特別会計繰出費	-	1,600,000	1,600,000	周年特別会計へ160万円繰り出し
		5. 禅文化学林開催費	1,000,000	1,000,000	0	
	3. 広報費		8,900,000	10,100,000	1,200,000	
		1. 編集費	1,500,000	1,200,000	△ 300,000	
		2. 印刷費	2,700,000	2,600,000	△ 100,000	
		3. 発送費	4,300,000	5,800,000	1,500,000	
		4. 封筒制作費	400,000	500,000	100,000	専用封筒・挨拶文作成費
	4. 助成金		500,000	400,000	△ 100,000	
		1. 管区大会助成金	500,000	400,000	△ 100,000	4管区開催予定
	5. 積立金		4,100,000	2,100,000	△ 2,000,000	
		1. 周年事業基金	500,000	0	△ 500,000	
		2. 次期執行部準備金	100,000	100,000	0	
		3. その他	3,500,000	2,000,000	△ 1,500,000	ボランティア基金へ50万円 シラカシ(高校生)振付特別会計へ150万円
	6. 雑費		30,000	30,000	0	
		1. 同上	30,000	30,000	0	
	7. 予備費		100,000	70,000	△ 30,000	
		1. 同上	100,000	70,000	△ 30,000	
合計			33,490,000	35,900,000	2,410,000	

※尚、各項目間の流用を認めるものとする。

【基金】ボランティア基金 7,235,917 円
周年事業基金 5,000,000 円 全国曹洞宗青年会 会長 田ノ口太悟
次期執行部準備金 676,402 円 会計 開地 隆道

款	項	目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
1. 基本運営収入			9,180,160	9,104,160	△ 76,000	
	1. 会費収入		2,509,000	2,433,000	△ 76,000	
		1. 同上	2,509,000	2,433,000	△ 76,000	
	2. 繰越金		6,671,160	6,671,160	0	
		1. 前年度繰越金	6,671,160	6,671,160	0	
2. 事業費収入			24,309,840	25,014,804	704,964	
	1. 賛助費収入		5,500,000	5,639,627	139,627	
		1. 同上	5,500,000	5,639,627	139,627	
	2. 助成金		13,300,000	13,646,500	346,500	
		1. 事業助成費	13,000,000	13,000,000	0	曹洞宗若手若より
		2. 協賛金	300,000	646,500	346,500	広報誌広告協賛金
	3. 事業収入		5,500,000	5,275,614	△ 224,386	
		1. 同上	5,500,000	5,275,614	△ 224,386	頒布事業等
	4. 雑戻金		0	362,987	362,987	
		1. 委員会運営費雑戻金	0	362,987	362,987	
	5. 雑収入		9,840	90,076	80,236	
		1. 同上	9,840	90,076	80,236	祝賀・料子
合計			33,490,000	34,118,964	628,964	

款	項	目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
1. 基本運営費			7,210,000	5,845,991	△ 1,364,009	
	1. 会議費		750,000	468,887	△ 281,113	
		1. 役員会	250,000	205,468	△ 44,532	年5回 執行部会・理事会
		2. 総会	500,000	263,419	△ 236,581	年2回 評議員会・総会
	2. 執行交通費		5,400,000	4,460,350	△ 939,650	
		1. 役員会	2,600,000	1,945,000	△ 655,000	年5回 執行部会・理事会
		2. 評議員	1,300,000	451,000	△ 849,000	年2回 定期・臨時評議員会
		3. 渉外交通費	1,500,000	2,064,350	564,350	
	3. 全日仏青関連費		250,000	250,000	0	
		1. 負担金	250,000	250,000	0	全日仏青加担費負担金
	4. 事務費		680,000	663,234	△ 16,766	
		1. 通信費	350,000	290,481	△ 59,519	郵送料・振込手数料等
		2. 慶弔費	200,000	324,120	124,120	電報、祝賀、香典等
		3. 消耗品費	100,000	43,313	△ 56,687	郵便封筒作成費等
		4. 備品費	30,000	5,320	△ 24,680	
	5. 雑費		30,000	3,520	△ 26,480	
		1. 同上	30,000	3,520	△ 26,480	
	6. 予備費		100,000	0	△ 100,000	
		1. 同上	100,000	0	△ 100,000	
2. 事業費			26,280,000	26,770,397	490,397	
	1. 委員会運営費		6,200,000	6,200,000	0	
		総合企画委員会	1,400,000	1,400,000	0	企画運営・頒布事業等
		広報委員会	2,300,000	2,300,000	0	広報活動等
		教化委員会	1,400,000	1,400,000	0	教化事業、精選料理教室等
		国際委員会	1,100,000	1,100,000	0	国際事業等
	2. 事業費		6,450,000	6,635,779	185,779	
		1. 本部事業費	4,850,000	5,082,899	232,899	頒布事業、配信事業等
		2. 研修会開催費	300,000	252,880	△ 47,120	中央研修会等
		3. 国際活動事業費	300,000	300,000	0	
		4. 禅文化学林開催費	1,000,000	1,000,000	0	
	3. 広報費		8,900,000	9,334,618	434,618	
		1. 編集費	1,500,000	1,498,200	△ 1,800	広報誌編集費
		2. 印刷費	2,700,000	2,675,778	△ 24,222	広報誌印刷費
		3. 発送費	4,300,000	4,772,362	472,362	広報誌郵送料
		4. 封筒制作費	400,000	388,278	△ 11,722	専用封筒・挨拶文作成費
	4. 助成金		500,000	500,000	0	
		1. 管区大会助成金	500,000	500,000	0	北海道・東北・東海・中国・九州
	5. 積立金		4,100,000	4,100,000	0	
		1. 周年事業基金	500,000	500,000	0	
		2. 次期執行部準備金	100,000	100,000	0	
		3. その他	3,500,000	3,500,000	0	ボランティア基金に50万円 歳入特別会計に300万円
	6. 雑費		30,000	0	△ 30,000	
		1. 同上	30,000	0	△ 30,000	
	7. 予備費		100,000	0	△ 100,000	
		1. 同上	100,000	0	△ 100,000	
合計			33,490,000	32,616,388	△ 873,612	

【基金】ボランティア基金 7,235,917 円
周年事業基金 5,000,000 円 全国曹洞宗青年会 会長 山田 俊哉
次期執行部準備金 676,402 円 会計 川浦 良允

全国曹洞宗青年会 ZEN CUSHION 製作特別会計予算

期間 令和5年4月1日～令和7年3月31日

歳入総額	7,824,401 円
歳出総額	7,824,401 円
差引残額	0 円

創立50周年記念事業 特別会計歳入歳出予算

期間 令和5年4月1日～令和7年3月31日

歳入総額	16,950,000 円
歳出総額	16,950,000 円
差引残額	0 円

【歳入の部】 (単位:円)

項 目	金 額	備 考
令和4年度繰越金	3,024,401	令和4年度頒布物特別会計より
令和5年度積立金	1,500,000	令和5年度一般会計より
令和6年度積立金	3,300,000	令和6年度一般会計より
合 計	7,824,401	

【歳出の部】 (単位:円)

項 目	金 額	備 考
初期ロット製作費	2,675,200	株式会社モンベル (カバーのみ)
再製作費	4,752,000	株式会社モンベル (カバー・寝袋)
梱包作業費	349,201	交通費・段ボール購入費など
予備費	48,000	
合 計	7,824,401	

【歳入の部】

項	目	本年度予算額	備 考
1. 繰入金		8,600,000	
	1. 繰入金	8,600,000	一般会計・周年事業基金より
2. 助成金		6,000,000	
	1. 事業助成金	6,000,000	曹洞宗事務局より
3. 事業収入		1,850,000	
	1. 研修事業	1,350,000	参加費
	2. 教化・交流事業	100,000	
	3. 協賛金	400,000	事業への祝賀・添葉、記念誌協賛等
4. その他		500,000	
	1. 諸収入	495,000	式典祝賀・添葉等
	2. 雑収入	5,000	預金利息等
合 計		16,950,000	

【歳出の部】

項	目	本年度予算額	備 考
1. 両大本山拝登事業		3,000,000	
	1. 事業費	3,000,000	両大本山献香料、拝請等
2. 研修事業		3,040,000	
	1. 事業費	200,000	資料作成等
	2. 会場費	270,000	3万円×9管区
	3. 講師謝礼	540,000	3万円×2名×9管区
	4. 交通費	2,030,000	講師・委員×9管区
3. 教化・交流事業		1,400,000	
	1. 事業費	700,000	資料作成等
	2. 会場費	200,000	
4. 記念誌事業		3,500,000	
	1. 編集費	1,200,000	編集デザイン費
	2. 印刷費	1,100,000	
5. 記念式典事業		3,000,000	
	1. 事業費	3,000,000	会場費等
	6. 委員会活動費	2,200,000	
7. 広告費		600,000	
	1. 委員会費	2,200,000	2年間
8. その他		600,000	
	1. 編集費	300,000	ロゴマークデザイン、チラシデザイン等
9. その他		600,000	
	2. 印刷費	300,000	チラシ等
10. その他		210,000	
	1. 予備費	210,000	
合 計		16,950,000	

*但し、他項目間の流用を認める

全国曹洞宗青年会の活動にご理解とご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。
お預かりした賛助費は活動の大きな支えとして活用させていただくとともに、
またボランティア基金として災害復興支援活動に充てさせていただきます。

◆宮城県

- 9 瑞雲寺 様
- 16 林香院 様
- 55 實相寺 様
- 76 清涼寺 様
- 102 吉祥寺 様
- 113 繁昌院 様
- 252 福嚴寺 様
- 301 洞源院 様
- 420 玖光院 様

◆岩手県

- 7 永祥院 様
- 17 清水寺 様
- 28 聖福寺 様
- 44 江岸寺 様
- 52 福藏寺 様
- 58 長福寺 様
- 81 円城寺 様
- 145 見性寺 様
- 158 願成寺 様
- 166 寶泉寺 様
- 196 建高寺 様
- 210 常樂寺 様
- 256 曹源寺 様
- 289 宝積寺 様

◆青森県

- 15 梅林寺 様
- 105 東昌寺 様
- 112 法蓮寺 様
- 117 泉龍寺 様
- 183 大乘寺 様
- 185 観音寺 様

◆山形県1

- 101 長泉寺 様
- 136 長泉寺 様
- 181 祥雲寺 様
- 229 瀧応寺 様

◆山形県2

- 344 藏高院 様
- 345 光岳寺 様

◆山形県3

- 466 禪龍寺 様
- 470 蓮台院 様
- 622 光星寺 様
- 734 東光寺 様

◆秋田県

- 17 補陀寺 様
- 80 泉秀寺 様
- 89 高建寺 様
- 116 龍安寺 様
- 166 久昌寺 様
- 174 満福寺 様
- 186 永泉寺 様
- 206 松雲寺 様
- 209 満友寺 様
- 274 盛澤寺 様
- 321 鏡得寺 様
- 323 恩徳寺 様
- 338 圓通寺 様

◆北海道1

- 69 大林寺 様
- 96 観音寺 様
- 488 清泉寺 様

◆北海道2

- 117 中央院 様
- 181 永祥寺 様
- 241 孝徳寺 様

◆北海道3

- 203 西来寺 様
- 312 法泉寺 様

インターネット受付分

◆静岡県1

- 165 光明寺 様

◆新潟県1

- 394 常安寺 様

◆秋田県

- 265 倫勝寺 様

◆福島県

- 226 常隆寺 様



住職必携
寺族必読

百項目修補
百六十七頁増



大好評 増補再刊
『一期一会 耳林抄』

読経・法要・葬儀・年忌等の
作法の意義と功德を
道徳・常識・通仏教を越へ
宗意に添って説ける
五分間法話の実例集

花井寺住職 井上義臣 著

定価 四千五百円
二六八項目・五七八頁

滴禅会



賛助費・ボランティア基金浄納芳名簿

2023年4月1日～2023年6月30日取扱い分

◆東京都

14 法音寺 様
105 鳳林寺 様
106 観泉寺 様
115 高安寺 様
333 雲慶院 様
371 円明寺 様
376 東照寺 様

◆神奈川県1

324 玉寶寺 様

◆神奈川県2

149 梅宗寺 様
383 観音寺 様
390 善光寺 様

◆埼玉県1

19 宝積寺 様

◆埼玉県2

237 吉祥院 様

◆群馬県

43 高常寺 様
99 龍傳寺 様

◆栃木県

1 成高寺 様
23 松楽寺 様
57 満福寺 様
167 興福寺 様
175 本光寺 様

◆茨城県

39 常安寺 様
134 大統寺 様

◆千葉県

7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
22 廣壽寺 様
29 慶林寺 様
93 芳泰寺 様

◆山梨県

280 円通院 様

◆静岡県1

7 元長寺 様
26 宝珠院 様
95 久應院 様
138 龍興寺 様
159 玄清寺 様
388 林叟院 様
461 心岳寺 様
464 正泉寺 様

◆静岡県2

229 法華寺 様
319 源光院 様
325 海藏寺 様

◆静岡県3

584 長興寺 様
767 大雲院 様
927 正眼院 様
989 観音寺 様
1208 法雲寺 様
1228 栄林寺 様
1314 西光寺 様

◆静岡県4

1065 高林寺 様

◆愛知県1

7 全香寺 様
18 大運寺 様
55 長全寺 様
101 成福寺 様
156 地藏寺 様
162 妙測寺 様
173 神藏寺 様
182 観昌寺 様
229 寶泉寺 様
313 長松寺 様
605 天徳寺 様
625 宝積寺 様
629 神龍寺 様
635 永澤寺 様
1119 松月寺 様
1256 大泉寺 様

◆愛知県2

684 花井寺 様

◆愛知県3

411 福田寺 様
431 報恩寺 様
498 神後院 様
557 楞嚴寺 様

◆岐阜県

15 東林寺 様
80 龍泰寺 様
127 増福寺 様
190 長久寺 様

◆三重県1

6 常在院 様
25 福壽院 様
37 四天王寺 様
83 涼泉寺 様
114 海禅寺 様
144 福源寺 様
273 禅龍寺 様
276 地藏院 様
285 玉泉寺 様
316 劔光寺 様

◆滋賀県

143 永壽院 様

◆京都府

46 榮春寺 様
91 福泉寺 様
236 善光寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

26 天徳寺 様
31 正泉寺 様
98 吉祥院 様

◆和歌山県

10 窓譽寺 様
52 宗應寺 様

◆兵庫県1

337 友松寺 様

◆兵庫県2

117 法円寺 様
134 谷松寺 様
147 長楽寺 様
228 豊楽寺 様

◆岡山県

3 長川寺 様
150 大医寺 様

◆広島県

1 国泰寺 様
46 双照院 様
76 長福寺 様
95 泉龍寺 様
133 少林寺 様
143 常林寺 様
158 西福寺 様
162 徳雲寺 様
177 功德寺 様
199 道心寺 様

◆山口県

86 興元寺 様
131 大泉寺 様
145 久屋寺 様

◆鳥取県

1 興雲寺 様
27 景福寺 様
168 聖福寺 様
206 雲龍寺 様

◆島根県1

209 圓通寺 様
332 興源寺 様

◆島根県2

19 常福寺 様
32 宗淵寺 様
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
94 洞泉寺 様
199 妙樂寺 様

◆愛媛県

135 秀禅寺 様
146 興雲寺 様

◆福岡県

5 妙徳寺 様
25 南林寺 様

◆長崎県1

42 西方寺 様
78 宝泉寺 様

◆熊本県1

28 大慈寺 様

◆熊本県2

122 國照寺 様

◆長野県1

105 福泉寺 様
147 徳應院 様
225 興国寺 様
370 日輪寺 様

◆長野県2

373 頼岳寺 様

◆福井県

101 永建寺 様

◆石川県

11 長谷院 様

◆富山県

54 大淵寺 様

◆新潟県1

4 宗現寺 様
368 正通寺 様
393 曹源寺 様
439 林興庵 様
487 宝泉寺 様
496 長樂寺 様

◆新潟県3

580 賞泉寺 様

◆新潟県4

6 大榮寺 様
9 東陽寺 様
69 永明寺 様
217 諸善寺 様

◆福島県

19 常円寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
111 普光寺 様
121 長泉寺 様
162 昌建寺 様
173 長慶寺 様
246 長徳寺 様
266 洞雲寺 様
274 龍門寺 様
405 勝方寺 様
461 正法寺 様

全国曹洞宗青年会

第二十六期会長選考について（公募）

会長選考委員会に於いて、会則並びに細則に従って左記の事項が決定されました。全国曹洞宗青年会第二十六期会長に立候補する者は、左記の要綱に従い、立候補届けを完了して下さい。

全国曹洞宗青年会 第二十六期会長選考委員会 委員長 霊元圭昌

記

●全国曹洞宗青年会 第二十六期会長選考委員会 届出要綱

- 一、立候補届並びに履歴書の提出
- 二、立候補者の曹洞宗青年会における経歴書の提出
- 三、推薦状 ①管区曹青会代表者
②曹青会代表者
- 四、立候補に当たつての執行方針の提出
- 五、立候補届出先
「全国曹洞宗青年会 第二十六期会長選考委員会 委員長 霊元圭昌」宛
〒八八二一〇四〇一
宮崎県西臼杵郡日之影町七折三三六九一 昌龍寺内
電話 〇九八二一八八一三二七
- 六、立候補届出期限 令和六年一月三十一日（水）必着
- 七、立候補届出方法 必ず郵便書留にてお願いいたします。
- 八、選考委員会構成員
選考委員長 霊元 圭昌（九州管区理事）
選考副委員長 倉科 俊浩（北信越管区理事）
選考委員 田ノ口太悟（第二十五期会長） 佐藤 康彦（北海道管区理事）
菊池 裕紀（東北管区理事） 宇田川宗美（関東管区理事）
井上 洋彰（東海管区理事） 上田 大悟（近畿管区理事）
清木 玄栄（中国管区理事） 福村 泰史（四国管区理事）

※会則につきましては全曹青公式HP『般若』に掲載しております。
<http://www.sousei.gr.jp/>

以上



全国曹洞宗青年会創立50周年記念事業 「両大本山拝登」

大本山總持寺 「世界平和祈禱諷経」「全曹青創立50周年報恩諷経」ご随喜のお願い



全国曹洞宗青年会も第25期の任期となり、創立50周年の節目を迎えることとなりました。国内海外問わず幅広く活動を続けてこられましたのも、ひとえに先輩諸老師・会員諸師の皆様のお力の賜物と感謝の念に堪えません。

この50周年を記念して行う事業の一つとして、原点に立ち返る機会と考え「両大本山拝登」を企画しております。

本年は大本山總持寺に拝登いたします。石附周行紫雲臺観下にて「世界平和祈禱諷経」を御親修賜り、全曹青会長導師により「全曹青創立50周年報恩諷経」を厳修いたします。

ご多忙とは存じますが下記の日程で開催いたしますので、全国の想いを集めた諷経にさせていただきますたく、ご参集くださいますようお願い申し上げます。

記

日時 令和5年11月29日（水）

13:30 「全曹青創立50周年報恩諷経」 全曹青会長導師

引き続き「世界平和祈禱諷経」 紫雲臺観下御親修

場所 大本山總持寺

以上

※申込・詳細に関しましては、改めて各青年会様にご案内させていただきます。

表紙の話

今号の広報誌『SOUSEI』は、第25期始動の号です。新しいスタートを意識し、表紙は「旅立ち」をテーマとしました。これまで続いていた全曹青の歴史と想いを受け継ぎ、新たな未来へと飛び立ちます。

撮影地／広島県福山市 撮影／50周年記念事業実行副委員長 菅悠生

令和5年梅雨前線による大雨は、各地で甚大な被害を及ぼしました。

亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りしますとともに、被害に遭われました皆様に衷心よりお見舞いを申し上げます。

全国曹洞宗青年会